

令和3年度 教員研究生
カリキュラム開発研究

教科書での指導と英語の読書活動を 組み合わせた指導の工夫

—自信をもって情報や考えを表現
できる生徒を育成するために—

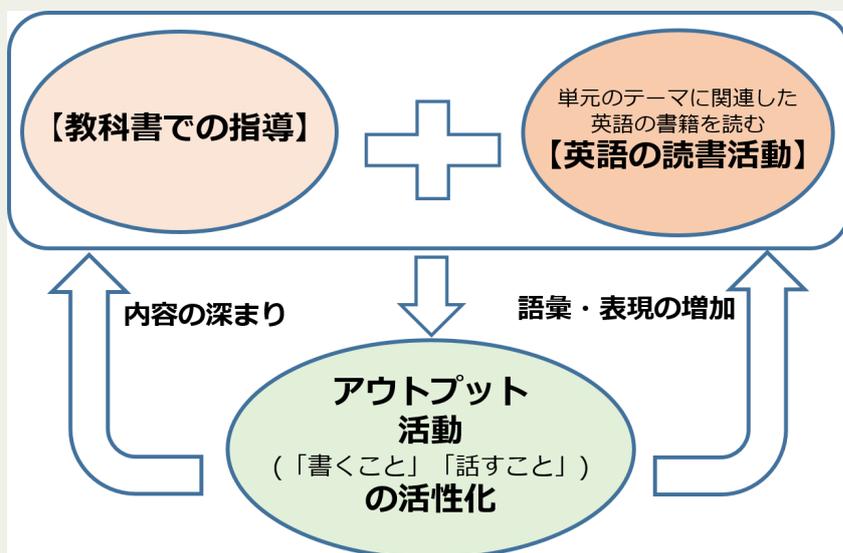
1 教科書での指導と英語の読書活動を組み合わせた学習モデルについて

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）第8節外国語の目標では「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」と示しており、4技能を結び付けた発信力の強化がポイントだと考えられる。

しかし、高等学校の英語科における指導では、扱う内容の語彙や表現等が高度化し、その内容に関して伝えたい意見等を表現することに課題がある。また、教科書を使用した精読が授業の中心であることも多く見られ、実際にアウトプット（「話すこと」、「書くこと」）をするためのインプット量（「聞くこと」、「読むこと」）は、教科書の本文だけでは充足しているとは言えない。

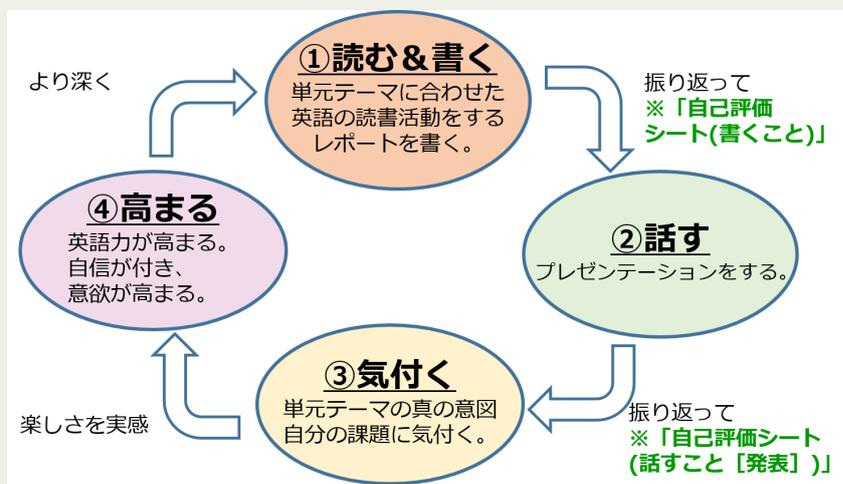
そこで、多量のインプットを確保する活動として、すでに効果が実証されている「多読」（英語の読書活動）を授業内に取り入れる学習モデルを開発した。インプットを増やして語彙や表現の幅を広げることにより、授業内のアウトプット活動（「話すこと」、「書くこと」）を活性化し、生徒たちが自信をもって情報や考えを英語でできるようになることを目指す。

(1) 学習モデルイメージ



教科書のテーマに合わせた英語の読書活動によって、語彙・表現を増加させ、アウトプット活動（「書くこと」、「話すこと」）を活性化する。アウトプットを活性化することにより、語彙や表現が定着し、さらに教科書の内容理解が深まる。

(2) 学習モデルを活用した生徒の学習サイクル



- ①英語の読書活動の後、事前に提示した基準を基にレポートを書かせる。※自己評価シート（書くこと）提出
- ②事前に評価基準を提示した上で、単元の終末にプレゼンテーションを行わせる。※自己評価シート（話すこと【発表】）提出
- ③単元のテーマの真の意図と、自身の英語運用能力の課題に気付かせる。
- ④生徒の英語運用能力が高まるとともに、英語学習意欲も高まる。

2 単元学習モデルについて

◎ねらい

- ・教科書のテーマに合わせた英語の読書活動を取り入れることにより、アウトプット（「書くこと」、「話すこと」）に必要なインプットを補い、授業内での言語活動を活性化させる。

◎指導のポイント

- ・教科書での指導と英語の読書活動を同時並行で行う。
- ・「書くこと」、「話すこと [発表]」の自己評価シートと同時に、それぞれの評価基準を提示する。
- ・「書くこと」、「話すこと [発表]」それぞれの段階で、生徒による自己評価と指導者のフィードバックを行う。

○単元の流れ（6時間の例）

※ICT（クラウド型グループウェア及びアンケート作成ツール）を活用

	指導者の動き	生徒の活動	指導者のICTを活用した指導
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いた単元の導入 ・<u>レポートの説明</u> ・<u>自己評価シート（書くこと）の説明</u> ・本の選択、読み方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の把握 ・<u>レポートテーマに関する学習</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・本の選択に関する質問の受付 ・自己評価シート（書くこと）の配信 ・レポート添削及び返却 ・自己評価シート（書くこと）の受領、フィードバック
第2時 ～ 第4時	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いた4技能指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いた活動 ・レポートの提出 ・自己評価シート(書くこと)の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の受付、励まし ・教科書を用いた活動
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>プレゼンテーション作成指導</u> ・<u>自己評価シート（話すこと [発表]）の説明</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートを基に、<u>プレゼンテーション作成指導</u> ・<u>プレゼンテーションの練習</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シート（話すこと [発表]）の配信
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>代表で発表したプレゼンテーションへのコメント</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>プレゼンテーション (グループ内、代表発表)</u> ・<u>自己評価シート(話すこと [発表])提出</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シート（話すこと [発表]）のフィードバック

※下線部は英語の読書活動に関する内容

3 レポートについて

◎ねらい：読んだ本の内容をまとめ、そこから考えたことを英語でまとめることにより、教科書単元の内容を深めるとともに、語彙や表現の幅を広げる。

◎指導のポイント

- ・本のレベルはC E F R A 1～A 2程度とする。
- ・レポート課題は、読んだ本の概要だけでなく、単元のテーマにつながる深い考察を促す内容とする。
- ・単元の終末に行う3分間のプレゼンテーションを想定し、設定語数は200語程度とする。
- ・期限内であれば、途中で本を変更することも可能とする。
- ・提出された課題に対し、指導者は1文法・表現、2内容の2観点で添削し、返却する。

◎レポート例

- (1)単元のテーマ：最年少の17歳でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイの生い立ちと業績について
レポート課題：読んだ本の人物について、200語程度の英文でまとめる。
アメリカの小学生向け伝記シリーズの中から好きな人物の伝記を1冊選んで読み、課題レポートを完成させる。
- (2)単元のテーマ：日本文学者のドナルド・キーンが、日本文学に夢中になったきっかけについて
レポート課題：外国の物語を読み、日本の文化との共通点や相違点について200語程度の英文でまとめる。
英語学習者向けに書かれた段階別読み物の中から、好きな文学作品を1冊読み、課題レポートを完成させる。
- (3)単元のテーマ：地球温暖化と国際協力について
レポート課題：環境問題を一つ取り上げ、国際的に取り組むべきこと及び個人として取り組めることについて、200語程度の英文でまとめる。
環境問題について書かれた本の中から1冊を選んで読み、課題レポートを完成させる。
- (4)単元のテーマ：科学技術の進歩と社会生活の変化について
レポート課題：社会生活を大きく変えたテクノロジーを一つ取り上げ、利点と欠点について200語程度の英文でまとめる。
最新の科学技術について書かれた本の中から1冊を選んで読み、課題レポートを完成させる。
- (5)単元のテーマ：SDGsと持続可能な社会について
レポート課題：SDGsの17の目標に追加する新しい目標を考え、200語程度の英文でまとめる。
SDGsについて書かれた本の中から1冊を選んで読み、課題レポートを完成させる。

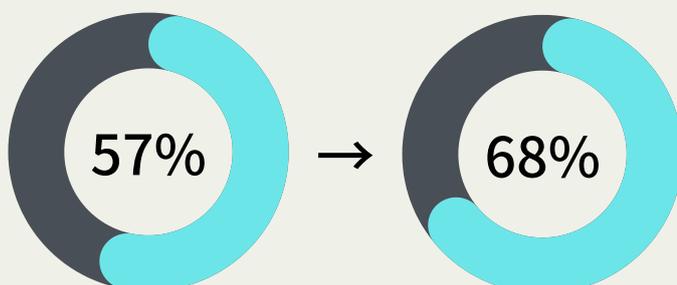
○10単元で取り入れた場合、少なくとも年間10冊の英語の書籍を読むことができる。

◎検証授業結果より

Q 教科書の内容がより理解できた。

検証授業 1 回目

検証授業 2 回目



教科書単元のテーマに合わせた英語の読書活動を取り入れることで、約60%から約70%の生徒が、教科書の内容をより理解できたと感じていた。

4 自己評価シートについて（課題例：外国の物語を読む）

(1) 「書くこと」

- ✓ 全員に達成してほしい目標をbとして設定する。
- ✓ 生徒が自己評価を記入した後、指導者が評価を書き込んで返却する。

	目標	評価基準	自己評価	指導者評価
内容	物語の内容から、外国の文化と日本の文化を比較し、類似点や相違点と、それについての自分の考えを述べることができる。	a. 物語の内容を基にして、日本の文化との類似点や相違点と、それについての自分の考えを、考察とともに述べている。 b. 物語の内容を基にして、日本の文化との類似点や相違点と、それについての自分の考えを、具体的に述べている。 c. 物語の内容を基にして、日本の文化と類似点や相違点についてか自分の考えについてのどちらか一方しか述べていない。		
構成	代名詞や接続詞などを効果的に使用して、分かりやすい流れと構成で文章を書くことができる。	a. 代名詞や接続詞が適切に使われていることに加えて、明確な段落構成で文章を書いている。 b. 代名詞や接続詞などを効果的に使って、分かりやすい流れと構成で文章を書いている。 c. 代名詞や接続詞の使用が十分でないため、文章の流れと構成が分かりづらい。		
語彙	読み手を考えた分かりやすい語彙や文法を使うことができる。	a. 難解な表現を平易な表現に変えるなど、読み手を意識した分かりやすい語彙や文法を使って書いている。 b. 読み手を考えた、分かりやすい語彙や文法を使って書いている。 c. 難解な語彙や分かりにくい表現が多く、読み手に伝わりづらい文章である。		

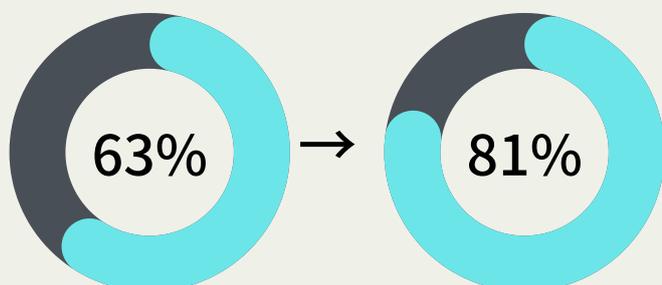
◎うまくできるようになった点やできなかった点を書いてください。

◎検証授業結果より

Q 英語で文章を書きやすくなった。

検証授業 1 回目

検証授業 2 回目



プレゼンテーション後、原稿を見ないで要約した文の平均語数は **1回目43.7語から2回目53.6語に増加した。** また、and やbutなど同じ語を繰り返す文から、howeverやfinallyなど様々な表現を使って文を展開する割合が増加するなど、**語彙の質も向上した。**

(2) 「話すこと[発表]」 (課題例：物語を読む)

- ✓ 全員に達成してほしい目標をbとして設定する。
- ✓ 「話すこと [発表]」については自己評価のみとする。
- ✓ 指導者は自由記述に対し、コメントを書いてフィードバックをする。

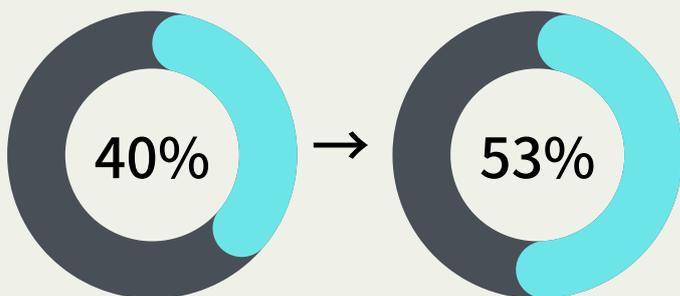
	目標	評価基準	自己評価
内容	選んだ本の要旨と日本の文化との共通点や相違点について述べるができる。	a. 聞き手の反応を見ながら、語彙や表現を変えるなどして、分かりやすく伝えている。 b. 使いたい語彙や表現を使用して、話して伝えている。 c. 「b」を満たしていない。	
表現力	伝えたい相手を意識した話し方ができる。	a. アイコンタクトや話すスピードに留意し、聞き手を意識して話している。 b. 声の大きさに気を付けて、聞き手に分かりやすいように話している。 c. 「b」を満たしていない。	
◎うまくできた点やできなかった点を書いてください。			

◎検証授業結果より

Q 英語で話すことに自信がもてるようになった。

検証授業 1 回目

検証授業 2 回目



○授業後の生徒の感想

- ・ 以前より英語で話すことに自信がもてるようになった。
- ・ 英語を使うことに楽しさを感じることができた。
- ・ 間違いを気にするといつまでも話すことができないと思った。
- ・ 自分の意見や思っていることを、声に出して話せるようになったと思った。
- ・ 普段自ら英語の文章を読まないなので、良い機会になった。

令和4年3月
東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
教員研究生
東京都立石神井高等学校
主任教諭 松井 聡美